

いのちの言の葉2010

富山県教育委員会 平成 22 年度いのちの教育総合支援事業

「ぼくらのいのちのひみつをさぐろう！」（総合的な学習の時間）

射水市立作道小学校 5 学年児童
平成 22 年 11 月 25 日実施

【いのちの先生】

松下 真由美先生
・スクールサポーター

【授業の概要】

- 1 「いのちの先生」の紹介
- 2 講演「あらちゃんと一緒」
- 3 授業の感想の記入

いっぱいがんばった松下さん親子

松下さんのお話を聞いて、障害がある赤ちゃんが生まれるということは、予想以上に大変なことだと分かりました。でも、松下さんはどんなに大変でも、あらちゃんを一生懸命育てられたから、「生まれてきてくれてありがとう」と思えたのだと思いました。私は、大事に育ててもらえたあらちゃんは幸せだったろうなと思いました。

みんな同じいのち

話を聞くまでは、「障害があると悲しむだけだ」と思っていました。でも、話を聞いてからは、障害があってもたくさんの幸せがあることが分かりました。松下さんは、あらちゃんからたくさんの幸せをもらったんだと思いました。あらちゃんの弟のすうちゃんが「あらちゃんは、ぼくの宝物」と言ったという話を聞いたとき、障害があってもなくても、みんな同じ大切ないのちだと思いました。

あらちゃんのおかげの幸せ

松下さんが病気になって、本当は 10 か月で生まれるはずだったのに、7 か月で、身長は 20 cm、体重は 700 g で生まれてきてしまったあらちゃん。松下さんは、「あらちゃんがいて、とても幸せだった」と言っておられたので、あらちゃんが生まれ、いっしょにすごせたことが幸せだったのだと思いました。いのちはやはり大切だと分かりました。

「生きる」ということ

未熟児として生まれ、脳性まひという重い障害がありながら 13 年生きたあらちゃんは、たとえ目が見えなくても、耳が聞こえなくても、「生きる」という気持ちはとても強かったのだと思います。

あらちゃんの話を知ると、「死ね」や「消えろ」と言ってしまうときがあった自分のことがとても恥ずかしくなりました。松下さんの話から、「生きる」ということの大切さを学びました。あらちゃんの分もまっすぐに生きたいと思いました。

支えられて一生懸命生きること

最初は、松下さんのことを「かわいそう」と思っていたけど、話を聞いて、あらちゃんやあらちゃんの弟のすうちゃんがいて最高だったということが分かりました。話すことができず、耳が聞こえず、歩けないあらちゃんだったけど、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃん等に支えられながら生きてこられてよかったと思いました。私もいろいろな人に支えられながら、ここまで生きてこられたのだと改めて思いました。